

# 未来の高度医療と人材育成の舞台を整え、県民の信頼に応える フラッグシップ・ホスピタルを実現します

## 玄関から外来 入院・外来・感染を入口で分けた、わかりやすい動線計画

### ■ 玄関で入院と外来を明快に分離

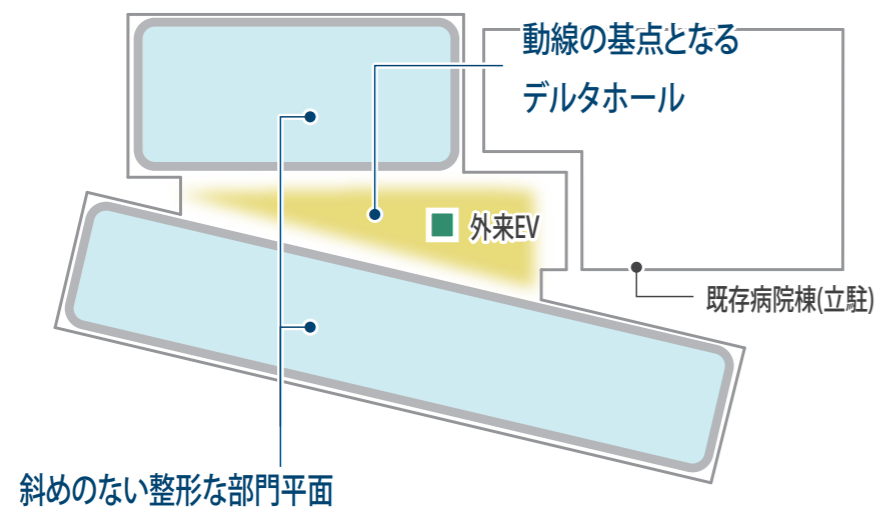
- 玄関ロビーを病院全体の玄関とし、入院と外来に動線を分けることで静と動を分け、落ち着いた環境を作ります。
- 感染患者は屋外の動線で2階の感染外来へ直接移動し、一般患者との院内交錯が生じない計画とします。



玄関ロビー 入院と外来を左右に明快分離

### ■ 低層部動線の基点、デルタホール

- 低層部の中央に三角形の吹抜空間「デルタホール」を設け、外来・検査・手術へ患者をわかりやすく誘導します。
- 玄関ロビーから外来、多目的ホールを2段階のセキュリティで区画し、時間外のスタッフと一般利用を容易にします。
- 患者総合支援・入退院・がん相談・周術期管理を一か所に集約します。

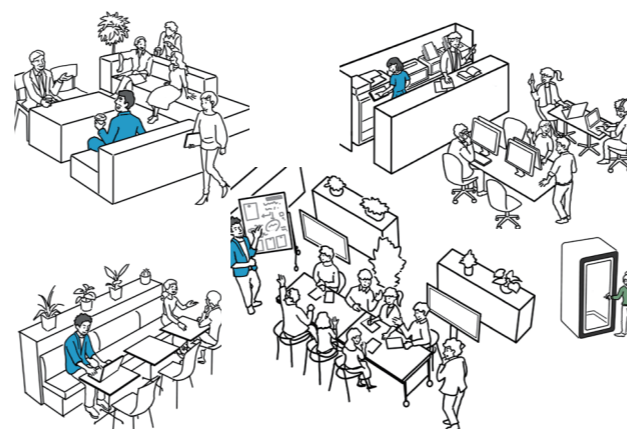


わかりやすく、使いやすいブロック構成

## 教育環境 研究・打合せ・休憩の場で、人材交流を活性化するスタッフ commons

### ■ スタッフ commons で人材育成支援

- スタッフ commons は、管理部門中央のビッグ commons と、外来・手術などの医療現場に点在するスモール commons の2段階で整備します。
- ビッグ commons は、大小の打合せや研究発表の場を備え、研究と多職種の情報共有や展開を促す知の結集拠点として整備します。
- スモール commons は臨床の現場近くで、タイムリーな教えあいの場として設け、業務中のスタッフ同士の交流・成長の場として整備します。



用途に合わせてさまざまな家具を備える commons

## 職場環境 搬送の合理化で、医師を中心としたスタッフの働き方改革に対応

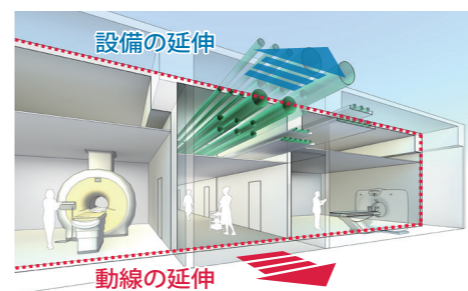
### ■ 動線配慮・搬送設備・DXで省力省人化

- 働き方改革に対応するために、看護師・コメディカルの搬送業務に注目します。
- 看護師業務のうち、物を運ぶ時間が2割を超える調査もあるため、効率的な部門配置による動線短縮化とともに、ロボットやDXを用いた最新の搬送設備が導入可能な検討を行います。

## 長期利用 成長と変化に対応する持続可能な環境整備

### ■ 可変性と拡張性の確保

- 最新機器の導入ニーズが高い放射線部門と、機能拡張が求められる手術部門に隣接して、増築スペースを確保します。
- 将来増築の際は、動線と設備をまっすぐ延伸できるように、あらかじめ対応を行います。
- 改修自由度の向上と経済性を両立するロングスパン架構や設備シャフトの効果的な配置を行います。



設備と人の動線をセットでまっすぐ延伸

## 災害受入 災害時の対応エリアを、立駐・外構を含めてあらかじめ想定して実装

### ■ あらかじめの受入れエリアを想定

- 災害時対応エリアをあらかじめ想定。スペースを検証し、必要な設備を備えます。
- トリアージにより、災害規模に応じて重症・中等症・軽症と災害弱者や帰宅困難者受入れを病院内外に想定します。

### ■ 免震立体駐車場を最大限活用

- 立駐は既存免震を生かして、災害時の救護活動・薬処方や、パンデミック時のPCR検査などへの活用を検討します。
- テント用アンカー・非常用コンセント・災害トイレなど必要な設備を検討します。

### ■ 地震対応の経験を計画に反映

- 東日本大震災や能登半島地震で活躍の病院から得た知見を反映します。

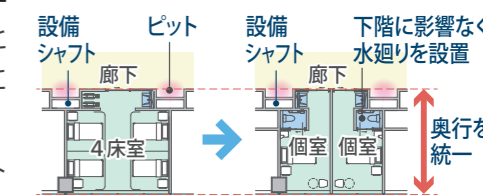


災害時受入れエリアをあらかじめ想定

## 病棟計画 患者の療養環境を守り、柔軟な看護運用が可能な病棟計画

### ■ 変化に対応するフリーレイアウト病室

- 4床室と個室の奥行を統一することで、病室の配置をフリーレイアウトにし、柔軟な看護体制に対応します。
- 4床室のトイレは、病室対面に多機能トイレとして設置。設備シャフトは将来の個室化や小ユニット化に対応します。



個室化の容易なフリーレイアウト病室

### ■ 患者に近く、看守りやすいシンプルな病棟

- 重症化と高齢化に配慮して、看守りコーナーと多機能トイレを各所に設置。ナースカートや物品・ロボットステーションに利用できるピットを設けます。



病棟 重症化と高齢化に備えた看守りコーナーと多機能なピット